

馬産地ライター村本浩平の 2017 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 1 | 4.18 [火] ▶ 6.22 [木] 開催分



4.18
[火]

ダンカーク賞
【北斗盃 [H3]】

ダンカークは父Unbridled's Song、母Secret Status (母の父A.P. Indy) の11歳。繋養先は浦河・イーストスタッドとなります。素晴らしい血統背景と好馬体が高い評価を集め、1歳時のセールでは370万ドル(約3億8千万円)で取引されます。現役時は5戦2勝と評価額に答えるだけの成績は残せませんでした。産駒たちがその評価が正しかったことを、競走成績として証明していきます。2010年からアメリカで種牡馬入りすると、初年度産駒のHavanaがGⅠチャンペンSを優勝。この活躍に後押しされる形で、2013年の北米ファーストシーズンサイアーに輝きます。日本での初年度産駒は2018年にデビュー。日本でもファーストシーズンサイアーとなれるか注目したいところです。

4.26
[水]

ゴールドシップ賞
【コスモバルク記念 [H3]】

ゴールドシップは父ステイゴールド、母ポイントフラッグ(母の父メジロマックイーン)の8歳。繋養先は新冠・ビッグレッドファームとなります。いわゆる「黄金配合」の配合馬となるゴールドシップですが、母ポイントフラッグもGⅢチュウリップ賞で2着に入り、牝馬三冠クラシックすべてに出走と、能力の高い牝馬であることは見逃せません。毛色と長距離適性の高さは母父メジロマックイーン、やんちゃさと闘争心の強さは父ステイゴールド譲りと言えるような活躍を残し続け、現役時は28戦13勝。獲得したGⅠタイトルは6つを数えます。現役時から非常にファンの多い馬であり、今でも多くのファンがビッグレッドファームへ見学に訪れています。そのファンも期待を寄せる初年度産駒たちは、2018年にデビューを迎えます。

5.24
[水]

ホッコータルマエ賞
【赤レンガ記念 [H3]】

新種牡馬

ホッコータルマエは父キングカメハメハ、母マダムチェロキー(母の父Cherokee Run)の8歳。繋養先は新冠・優駿スタリオンステーションとなります。ホッコータルマエの競走生活を語る際に燦然と輝くのが、日本競馬新記録となるGⅠ(Jpn1)10勝をあげた競走成績です。卓越した能力を持っていたのはもちろんのこと、3歳から7歳までの39戦を戦い抜き、17勝をあげた丈夫さもまた、この大記録の後押しとなりました。芝、ダートだけでなく、距離も問わない実績を残すキングカメハメハ産駒の中でも、特にダートにおける競走実績が際立っており、しかも牝系にはサンデーサイレンスの血を持たないので、配合相手に苦労することも少ないはず。2020年にデビューを迎える初年度産駒たちも、砂の上を席卷してくれそうです。

6.1
[木]

エイシンフラッシュ賞
【北海優駿(ダービー) [H1]】

初年度
産駒
デビュー

エイシンフラッシュは父King's Best、母ムーンレディ(母の父Platini)の10歳馬。繋養先は安平・社台スタリオンステーションとなります。King's Bestの持ち込み馬となるエイシンフラッシュですが、2007年生まれのKing's Best産駒は、いわゆる「当たり年」となりました。エイシンフラッシュが日本ダービーを優勝すると、エプソムダービーと、同じ年に行われた凱旋門賞をワークフォースが勝利。Saijhaaも6歳時にドバイデューティーフリーを制するなど、産駒は世界中のGⅠレースで躍動しました。エイシンフラッシュもまた、5歳時に天皇賞・秋を優勝と、父の産駒らしい成長力の高さを証明。初年度産駒は今年デビューを迎えますが、成長力に秀でた産駒が多いと評判になっています。

6.21
[水]

ミッキーアイル賞
【グランシャリオ門別スプリント [H3]】

新種牡馬

ミッキーアイルは父ディーピンパクト、母スターアイル(母の父Rock of Gibraltar)の6歳馬。繋養先は安平・社台スタリオンステーションとなります。2歳レコードで制した未勝利戦から、破竹の5連勝でのNHKマイルC制覇。昨年は高松宮記念とスプリンターズSで2着に入り、マイルCSを逃げ切ってGⅡ2勝目をあげます。今年もさらなる活躍が期待された中、種付けシーズンを前に突然の引退発表、そして種牡馬入りとなりましたが、20戦8勝という競走成績以上にその姿が鮮烈に残っているのは、やはり現役時に見せた、圧倒的なスピードを生かしたレースぶり。初年度産駒は2020年にデビューを迎えますが、その高い能力を見込まれ、先日、オーストラリアへのシャトルサイアーとなることも発表されました。

6.22
[木]

マジェスティックウォリアー賞
【ヒダカソウカップ [H2]】

マジェスティックウォリアーは父A.P. Indy、母Dream Supreme(母の父Seeking the Gold)の12歳馬。繋養先は浦河・イーストスタッドとなります。現役時は7戦2勝をあげていますが、この2勝はいずれも2歳戦。ホープフルSでは鮮やかな末脚でGⅠ初勝利を飾りますが、産駒にもその仕上がりの早さは遺伝され、先に種牡馬入りしたアメリカでは、2012年にファーストクロップサイアーで4位、翌年にはセカンドクロップサイアーの首位となります。日本では2016年シーズンからの繋養となりますが、輸入馬のベストウォーリアが南部杯連覇を含め、28戦9勝をあげる活躍を見せたことで、昨年は127頭の繁殖牝馬に配合を行う人気種牡馬となりました。初年度産駒は2019年にデビューを迎えます。

門別5回
(日程未定)

オウケンブルースリ賞

オウケンブルースリは父ジャングルポケット、母シルバージョイ(母の父Silver Deputy)の12歳馬。繋養先は浦河・イーストスタッドとなります。皐月賞の翌週にデビュー、日本ダービーの翌週に初勝利と、3歳の春まではクラシック戦線に絡めなかったオウケンブルースリですが、そこから連勝し、神戸新聞杯では3着。1番人気の支持を集めた菊花賞では、その期待に応えて優勝を遂げるとともに、デビューから184日目での菊花賞制覇は、史上最短記録ともなりました。古馬となつてからは4歳時に京都大賞典を優勝し、その年のジャパンCでも2着に入着するなど芝の中長距離で活躍。2013年から種牡馬となり、初年度産駒は昨年デビュー。父の活躍を見る限り、産駒が本領を発揮するのは3歳の春からとなりそうです。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

